寄書

三年以前の此頃

在高師　山桝大次郎

私には此歳の初に當つて、三年以前の過去を追想し感謝せなければならぬとがある、尙將來に於て猛然と立つて努力せなければならぬ感じが起つて來る。私は三年以前は片田舍の小さな小學校の教員であつた、常に東京に出て何かやつて見たいと多くの希望を持つて居つた、けれども私の空想と實力とは互に常に矛盾して居つて如何ともするとが出來なかつた、讀者諸君の中には或はその境涯を同じくして居らるゝ方があるかも知れぬ、私は生來繪をかくことはまづかつた、圖案と云ふこともよく知らなかつた、勿論用器畫法も忘れて居つたが、禁じ得なかつた私の志望は高等師範が圖畫手工料を募集すると同時に東京へ飛び出して、何んでも水彩畫會研究所の先生方から其節承つた『天稟の才は先天的にあるものだけれども、常に絕へざる努力は天才を作ると』云つた樣なことであつた、私にはよく解らなかつたが、只當時私は試驗の準備を一心不亂にやることで、研究所の多くの先輩や　諸先生達に、圖案のやり方、透影畫透視畫のこと、寫生の仕方の大體を習ひ、且つ懇切なる批評を承つた。仰せらるる通りに出來ぬから隨分苦しかつたけれど、其理屈の一部分丈けは解し得た。無論技術の方面は上達しなかつた、僅かの日數と何分年齡が年齡であつたから、けれども受驗の際にはともかく有頂天でやつてのけた、その當年の試驗問題は、石膏像の鉛筆寫生、林檎の水彩寫生、圖案は梅をもつて本の表紙の模樣、色は三ツの色の配合、用器畫は線の名稱及用途、或る角柱の相貫體の透影畫と、五角筒の透視畫、其他體格試驗及口頭試問とであつた。試驗を終つて國元へ歸つてから合格の報があつたそのときは、兎も角非常に愉快に感じられた。現在今迄かくの如くにして續くことの幸福を得たるのは、一つに先生方の賜であると感謝して居るが、平凡から平凡に終つて行く樣で誠にすまないやうな氣がして居る。今年又我々の科を募集しはつけ、或は私共と志を同じくせらるる讀者諸君がありはすまいかと思ひ、もしそんな方があるなら、こんなことは贅言で無いと思つた。否我々と同じ方向へ進むべき志望を持つて居らるる諸君に對して至當な義務だと信じたから、これを寄書した次第である。

日本水彩畫會新會友

兵庫縣龍野町小川町　長谷川勘次
德島縣名西郡入田村　木村二郎
岩手縣花卷町川口町吹張　菊池金丸
久留米市通東町　古川潤二
京都府龜岡町　桑原信太郎
滋賀縣長濱町　▲▲
松江市北田町　佐藤邦之助
獨領青島高橋寫眞館內　山口愼吾
和歌山縣東牟婁郡敷屋尋常小學校　宮地五十五郎
大坂府中河內郡加美村大字正覺寺　東門正太郎
木村方
神戸市楠町二丁目百七十五番屋敷ノ二　勝部新治